

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹波町立和知小学校（京都府）【指定校】

【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 めあてとふり返り

児童1人1人の「問い」を学習の「めあて」にすること

自分の問い：全体的に・おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。全体的に奇妙だと思ったしいきなりおとうが出て来るのがわからなかった。

めあて 学習計画を立てよう。 1

めあて 感想を書こう。 2

めあて 問いを持とう 3

めあて 太一の気持ちになろう

めあて 問いについて考えよう。 5

めあて 人間関係図を書こう。 4

ふり返り 学習計画を具体的に決められた。見方は、人によって違うということが分かった。
みんなの意見と比べて考えよう

ふり返り 僕は、海の命を隠しても奇妙な話だと思いました。そう思った理由は、そもそも僕は、海の人間じゃない漁師や釣り師の気持ちや漁師たちがどのように過ごしているかわからないし、海の命の姿や漁師の絵で表した方が奇妙と言うか独特だった話を隠すように感じました。この話では、難しい言葉が多すぎてさっぱりわからなかった。今日の授業で言葉、色、比喩などの使い方を学びました。この作品は、読み方や見方が違って見方は、変わるんだとわかりました。
読みたい

ふり返り 今日、海のいのちの問いと海のいのちの段落の題名（小見出し）を考えました。問いは、みんな違ったしみんなが選んでいることや考えていることは、違うんだとわかりました。題名（小見出し）では、みんな面白い題名だったりしていても楽しかったです。また話し合ったり人の感想や題名を見たり、参考にすると人の考えが分かったり少し楽しくなったりするから、いいなと思いました。

みんなの問い：
・なぜ太一は、瀬の主を殺さなかったのか。
・なぜ大魚は、この海の命だと思えたのか。

ふり返り 今日太一の気持ちになってみてこういうことって誰しもが起こることなんじゃないかなど思いました。
ときどきに起こったらどうするの？

ふり返り 今日、問いについて考えました。日記書いた、人間関係図を使うと問いの答えがわかりやすくなりました。みんなの問いや問いの答えの発表を聞いているとみんな考え方が違ったり海のいのちの見方が違ったりしたので面白かったです。
そのほか、おとうと大魚

ふり返り 今日、人間関係図を書きました。今回の人間関係図は、前の図とは、違って山の関係図や矢印の図、など少し前よりレベルアップした、関係図でした。僕は、前書いた関係図よりも詳しくかけて楽しかったと思います。本の登場人物の気持ちになったりするとその物語がわかりやすくなったり楽しくなったりするのでよかったです。
レベルアップさせてよかったです！

これまでは、教師が学習のめあてを決めていた。しかし、学習者の児童にとって、学習内容に対する「なぜ？」は違う。1人1人がもつ「なぜ？」こそが「問い」とあると捉え、それを「めあて」にすることにした。そうすることで、児童1人1人の主体的な学びをスタートさせることができるようになった。

また、学習支援ソフトやteamsを通して、他者参照が可能となり、児童のめあてを考える際の、有効な手段の一つとなった。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹波町立和知小学校（京都府）【指定校】

【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 めあてとふり返り

児童1人1人の「問い」を学習の「めあて」にすること

番号	めあて	1/14 自己評価	ふりかえり
1	今日は、三学期最初の理科・司会で今日の学習「冬の植物はどうなっているのかを観察し、まとめよう」	47	今日学んだ事は、秋に枯れた桜は冬に目（つぼみ）がついていて春に咲く。あと一年中葉をつける木と、付けない木があると知れた。
2	冬の植物を観察しどうなっているのかを観察しまとめよう。	70	動画を見て鳥と植物で鳥は、住んでいるところから他のところに行く。植物、桜はきに実ができるし実の中は、緑と茶色が入っていることが分かりました。
3	今日初めてやるので頑張って冬には植物がどのようになっているのかをたくさん観察してその後にとっても良い実験になると思っています。	B 62	冬の桜🌸は、芽になったてなかもまだ緑でびっくりしました。
4	今日は、植物はどうなっているのか考えます。わたしは、きちんと、じかんをみてやりたいなとおもいました。あと、まとめて時間があつたら、夏の植物のちがいをした	30	今日は、冬の植物はどうなっているのかか

また、めあてからふり返りまで一貫した学習を意識して、めあてに対するふり返りを丁寧にすることで、何を学んだのか・次の学びに対する「問い」は何か、などを表現することができた。

ふり返りにおいても、他者参照させることで、友達がどのような学びをしたのかが容易に交流できるようになった。教師にとっても、ふり返りから次の授業をどのように組み立てていくかを検討する材料になる。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹波町立和知小学校（京都府）【指定校】

【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 学び方の工夫



学び方は児童自らが決められる場の設定をした。友達と対話しながら学習を進めていくことで、自分の考えを伝えることができたり、友達の考えを参考にして自分の考えを深めたりすることができるようになった。

自分1人で考えたいという児童にとっては、自分のペースで学びを進めていくことができた。また、分からないという不安のある児童は教師との対話をもとに学習を進めることができた。このようにして、自分のペースで安心して学習を進める学び方の工夫ができた。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹波町立和知小学校（京都府）【指定校】

【取組内容】 情報活用能力 情報の整理・分析



世界に歩み出した日本
③日清・日露戦争によって変わった日本と世界との関係を考えよう。

日清・日露戦争とはどのようなものだったのか。
戦争に勝利したことで世界に与えた影響はどのようなものだったのか。
それぞれまとめていよう。
*東郷平八郎・植民地・樺太（サハリン）とは。

日清・日露戦争とはどのようなものだったのか。
戦争に勝利したことで日本と世界との関係はどのようなものになったのか。
それぞれまとめていよう。

日清戦争とはどのようなものだったのか。
日露戦争とはどのようなものだったのか。
それぞれまとめていよう。

○日清、日露戦争はどのようなものだったのか

欧米諸国の植民地になることを恐れた日本は、富国強兵などの政策を進めてきました。やがて朝鮮への進出を巡って中国「清」とロシアと対立するようになり戦争が起きました。

そしてこの戦争では東郷平八郎などの活躍もあり戦争に勝利しました。その結果樺太「サハリン」の南部と満州の鉄道などを得て韓国を日本の勢力に置くことをロシアに認めさせました。

○戦争に勝利したことで与えた世界への影響

この日本の勝利は欧米諸国に日本の力を認めさせ欧米の支配に苦しむアジアの国々を勇気づけました。一方で日本人の間では、朝鮮や中国の人々を下に見る態度が広がっていきました。



世界に歩み出した日本
③日清・日露戦争によって変わった日本と世界との関係を考えよう。

「日清・日露戦争による変化」
この頃、日本は朝鮮に不平等な条約を結ばせて勢力を伸ばそうとしました。朝鮮では、清の影響が強かったので、日本と清は対立を極めました。1894年朝鮮に内乱が起こると、日本と清はそれぞれ軍隊を送り、両国の間で日清戦争が起きました。この戦争に勝った日本は清から賠償金を取り、台湾などを植民地にしました。その頃、日本以外にも、朝鮮の領土を狙ってロシアが動き出していました。満州に勢力を伸ばそうとしていたロシアは、日本の動きを干渉し、日清戦争で手に入れた領土の一部を真に返させました。そこから、日本とロシアの対立は深まっていき、1904年に日露戦争となりました。日本は多くの戦死者を出しながらも、東郷平八郎らの活躍により、戦争に勝利しました。その結果、樺太の南部と満州の鉄道などを得て、韓国を日本の勢力のもとに置くことを認めさせました。

「戦争の影響」
中国や、ロシアに対する日本の勝利は、欧米諸国に日本の力を認めさせ、欧米の支配に苦しむアジアの国々を勇気づけました。

「東郷平八郎について」
東郷平八郎は日本海での戦いで、ロシアの軍隊を打ち破りました。

「植民地」
国が、国を支配下に置くこと。

児童自らが「問い」をもつためには、まず学習内容を把握して、情報を得ることができなければならない。その1つとして、教科書を「読むこと」ができることに着目した。教科書に何が書いてあるのか・この図は何を示しているのかなど、1つ1つの情報を読み取ることから始めた。そして、学習支援ソフトを用いて、必要な情報を整理・分析したり、「問い」に対する考えを書いたりすることができるようになった。また、同じ教材であっても、まとめ方は児童1人1人によって違いが見られる。このように自分の「問い」に対する自分の「考え」を表現することができるようになった。

【取組内容】 校務DX化

校内での情報共有は、学校運営の要の1つである。しかしながら、1つ1つの情報を共有することはなかなか難しい。そこで、teamsのチャットを用いて、教科指導の工夫・児童の様子・嬉しいお知らせなど、些細な情報をいつでもどこでも発信できるし、閲覧できることが可能になった。



この投稿を「読みましたよ！」という意味で“いいね！”アイコンを付ける。

授業の様子を紹介
この日は、校長が各教室を周り、授業で知り得た情報をアップ！

投稿に対するリプライ。
必ずしもリプライをする必要はなく、投稿したい時にアップするようにしている。
このやりとりをもとにして、他の教員も指導の工夫をテーマにした会話が進む！

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹波町立和知小学校（京都府）【指定校】

【取組内容】 校務DX化

月・週の予定は、その都度、更新されていく。そこで、Excelで作成したファイルをteamsにアップしておき、常に情報を更新させていく。

10月						
日	曜	行 事			出張等	
1	火	登校指導 安全点検 ⑤⑥競技予行(雨天日は2日) SC来校12:30~15:30→3日に変更 園工②6年③④5年	15:00	15:10 15:18	学びP研修会・南部(総セ/) 福祉事業説明会(10:00 /)	
3	木	町陸上交歓記録会 (雨天時は⑤⑥スポフェス予行) 運営委員会	15:00	15:10 15:18		
4	金	(町陸予備日) 外国語②6年③5年 (⑤⑥スポフェス予行予備日) ④委員会6(前日準備)	15:00	15:10		

教員は、いつでも、どこでも予定を確認したり、入力したりすることができる。常に更新されていくので、紙面での配布をすることが少なくなった。

出張等が分かれば、教務だけが入力するのではなく、担当の教員も入力をして、口頭で報告をする。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹波町立和知小学校（京都府）【指定校】

【取組内容】 情報活用能力 情報の発信・伝達

全校合唱

会場・デザイン

主な流れ
 1年間の思い出
 一年生歓迎遠足 1分
 修学旅行 2分
 スポーツフェスティバル 2分
 フィールドワーク 1分
 毎日の日々 2分
 送る会 2分

学習発表会や6年生を送る会など、学年発表の機会には、主に3年生以上の学年において、情報の発信・伝達を行なった。例えば、学級を2～3つのグループに分け、学習したことを整理する。整理した内容をもとに、どの順番で伝えていくのか・伝えていく際にどのように伝えるとより伝わりやすいかなどを考えながらグループで考えさせる。そして、発表会に向けてシナリオを作成する。同時に、共有機能を活かして、他グループがどんなことを考えているのか・現在の進行状況はどのようになっているのかなど、全ての児童と教師が把握することができる。

伝え方を考えては修正をかけ、その繰り返しを通して、よりブラッシュアップした発表内容を完成させることができた。